

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：警察費 項：警察活動費 目：交通指導取締費

## 事業名 交通事故総合管理システム整備費・管理費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

警察本部 交通部 交通企画課 電話番号：058-271-2424 (内 5021)

E-mail：[c18873@pref.gifu.lg.jp](mailto:c18873@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 221,014 千円 (前年度予算額：5,627 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,627	0	0	0	0	0	0	0	5,627
要求額	221,014	0	0	0	0	0	0	0	221,014
決定額	221,014	0	0	0	0	0	0	0	221,014

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

頻回事故歴者の把握に必要となる物件事故を含む全ての事故情報のデータベース化及び交通事故抑止に資するため地図情報を利用した分析を可能とする「交通事故総合管理システム」を平成27年4月から運用している。

システムは当初平成27年4月から令和2年3月までの5年間の賃貸借契約としサーバ機器等の賃貸借及び保守管理等を委託していたところ、令和4年1月の交通事故統計原票改正に合わせて新システムへの更新を計画したことにより、令和3年12月まで契約を延長して運用中である。

システム導入後、高度な交通事故分析が可能となり、効果的な交通安全対策の実施により、令和元年中の人身件数・死者数・負傷者数は、導入時の平成27年に比べ大幅に減少したものである。今後も交通事故総量の抑制、交通死亡事故の更なる減少を図るシステムを継続的に活用し、正確な事故データに基づいた緻密な交通事故分析を行っていく必要がある。

### (2) 事業内容

- ・交通事故総合管理システムの運用及び維持管理費  
システム開発費 201,892 千円

システム機器のリース（保守含む）	90,166 千円
地図更新費	4,350 千円
データ移行費	9,900 千円

### （３）県負担・補助率の考え方

「第 11 次岐阜県交通安全計画」の目標達成に向けた交通安全対策は、県を上げて取り組むべき対策であり、県負担は妥当である。

### （４）類似事業の有無

無し

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	211,792	交通事故総合管理システム機器等の初期導入費、データ移行費
使用料及び 賃借料	9,222	交通事故総合管理システム機器等の賃貸借費
合計	221,014	

### 決定額の考え方

## 4 参考事項

### （１）各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

Ⅱ-2-(2)-③ 犯罪・交通事故防止の推進

「第 10 次岐阜県交通安全計画」

目標 交通事故のない社会を実現し、県民を交通事故の脅威から守る  
 当面の目標 令和 2 年までに、年間の 24 時間死者数 80 人以下、死傷者数 9,000 人以下

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
 「第10次岐阜県交通安全計画」に記された目標達成に向けて、各種交通安全施策を推進する。（死者数180人以上、死傷者数19,000人以上の時、達成率0%）

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
		(H29)	(H30)	(前々年度末時点)		
交通事故死者数	(H )	75人	91人	84人	80人以下	95.2%
交通事故死傷者数	(H )	7,517人	6,485人	5,305人	9,000人以下	100%
		(H29)	(H30)	(R元)	(R2)	

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い</li> </ul>	
(評価) ○	安全・安心な「清流の国ぎふ」づくりのため、交通事故抑止の事業は最重要の施策であり、的確な事故防止対策を検討するため同事業の必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない</li> </ul>	
(評価) ○	今後更なる交通事故件数及び死傷者数の減少に向けて、交通事故抑止に効果のあるシステムの活用が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある</li> </ul>	
(評価) ○	システムを効果的に活用して、事務の合理化による街頭での交通安全活動の強化を図る。

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</li> </ul> <p>今後更なる交通事故件数及び死傷者数の減少に向けて、よりの確な事故防止対策を検討するため、データ化した交通事故の状況により危険箇所の早期把握及び対策効果の検証を行う必要がある。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</li> </ul> <p>多角的な交通事故分析とその分析結果をタイムリーかつ地図上にマッチングした視覚的効果のある資料として県民に広報し、更なる交通事故抑止に向けて継続して取り組んでいく。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 組み合わせる理由や期待する効果 など	
----------------------------------------------	--

